

先導的学際研究機構創薬サイエンス部門 平成30年度研究支援

課題名：感染赤血球特異的なホスファチジルセリンの露出メカニズムを応用した“免疫誘導型抗マalaria薬”の創出

微生物病研究所・准教授・東岸任弘

我々はマalaria感染赤血球特異的にホスファチジルセリンを露出させることでマクロファージによる貪食応答を誘導する“免疫誘導型抗マalaria薬”の創出を目指している。これまでに感染赤血球特異的にホスファチジルセリンを露出させる低分子化合物を見出しており、本研究支援においてその作用メカニズムを解析した。その過程で感染赤血球表面に局在するマalaria原虫タンパク質を同定し、そのメカニズムの一端が明らかになった。